

## 名せりふを庄内弁に、不快な音分析… 酒田東高生、研究成果を発表

酒田東高(大山慎一校長)の課題研究発表会が8日、酒田市の同校で開かれ、2



年生約160人が現代社会や化学、健康といった分野について調査や実験を重ねた探究型学習の成果を披露した。

生徒は本年度、歴史・文化・現代社会▽化学▽数学・情報・AI▽国語・英語

1年間の研究成果を披露する酒田東高の生徒  
酒田市・同高

・文学といった7分野から一つを選び、グループごとに調査してきた。この日は各分野の代表グループがステージで発表し、他グループはポスターを掲示し説明する形で発表を行った。

庄内弁を絶やさないために漫画の名せりふを庄内弁にアレンジする取り組み、身近な不快な音の分析、県が発行している「子育て応援パスポート」のアプリ化提案などテーマは多様。生徒は実験やアンケート調査、インタビューを行った経過などを、堂々と伝えていた。1年生約140人による研究発表も行われた。(井上萌々子)